

稲わらは 使えば資源、燃やせば公害 です!



稲わらは燃やさず、有効利用しましょう



西北地域県民局地域農林水産部

<<稲わらのすき込みで土づくり>>

稲わらは大切な資源です。田んぼの地力を高めて、おいしいお米を生産しましょう！

- すき込み時期は、秋を基本とし、石灰窒素など腐熟促進剤を使用する。
- 春の代かきは、水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込む。

《基肥窒素量の目安》

すき込み年数	基肥窒素量の目安
連用2～3年まで	慣行より5～10%増やす
連用3～4年目	慣行施用量と同量
連用4～5年目以降	慣行より5～10%減らす

- 根腐れを防ぐため、気象条件に応じた適正な水管理や、中干し、溝切りを行い、土に酸素を供給する。
- すき込みをしたほ場では、初期生育はやや劣るが、秋まさり的な稲になる。

<<農作業事故に気をつけて>>

忙しくても焦らず、急がず、周囲に気を配って慎重に農作業をしましょう！

- 機械への巻き込まれ防止
 - ・点検・詰まり除去時は必ずエンジンを停止する。
 - ・服装を整え、機械に巻き込まれないようにする。
- 機械の転落・転倒防止
 - ・ほ場の出入りや傾斜地では、特に転落や転倒に注意する。
 - ・トラクターには必ず安全フレーム等を装着する。
 - ・シートベルトやヘルメットも装着する。
- 高所作業中の事故防止
 - ・脚立等は、安定した場所に設置する。
 - ・脚立からは身を乗り出さず、こまめに移動する。
 - ・脚立の天板に上がっての作業はしない。

